

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.52

発行：2019.3.26 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagamihara-g.mond.jp/>

リニア新幹線工事実施計画（その2）の認可取り消しを求め東京地裁に提訴

JR東海は1昨年に「中央新幹線工事実施計画（その2）」を国交大臣あてに提出し、国交省は昨年3月これを認可しました。

これはリニア鉄道施設（トンネル、駅舎、変電所、車両基地、非常口設備）に付随する電気・通信工事や、列車の運行に関連する通信方法などを盛り込んだもので、環境影響評価手続きを全く受けていません。



記者会見のようす

「中央新幹線工事実施計画（その2）」の提訴は、リニアが鉄道事業法や環境影響評価法に違反しており、リニア工事が南アルプスの自然の破壊や沿線の住民生活の侵害などをもたらすもので、工事計画の実施を取り消すよう求めており、その意味で「中央新幹線工事実施計画（その2）」の認可取消しを求める今回の訴訟は「第2次提訴」と位置づけられるものです。

この日の提訴行動には、第一次訴訟原告側の関島保雄さん、横山聡さん、和泉貴士さんの三弁護士のほか、川村晃生（第一次訴訟）原告団長、そして第二次訴訟原告の萩原安雄さん（相模原・中央区）、岩井京子さん（東京・大田区）、木村まりさん（東京・杉並区）、籠谷清さん（東京・調布市）、松岡かおるさん（川崎・宮前区）が提訴手続きと記者会見に参加しました。（原告は67人）

<記者会見での発言>

萩原さん：「相模原市内のリニアルートは橋本に駅ができるため、14m～25mの浅深度トンネルが掘られる。そのためルートがかかる土地の地権者には地上権が生じる。いま30人ほどの地権者がまとまってJR東海と対応しようとしているが、JR東海から説明が行われない。地権者1人でも反対すれば工事は出来ない。他にも地権者が立ち上がっている。東京外環道の大深度工事で酸素のない空気が地表に吹き出したが、もっと深度が浅い相模原でも同じことが起きるので工事は許されない」。岩井さん「私は大鹿村に行き、リニア工事で村がどうなるか心配になった。南アルプスの自然が壊されようとしているのに、JR東海は工事についてきちんと説明せず工事を進めている」。

なお、記者会見にはメディア7社の記者が出席しました。（建部）

次回口頭弁論は5月17日（金）14：30～ 東京地裁103号法廷

みんなあいでよ「森カフェづくり」

4月13日（土）

9時 鳥屋：渡戸自治会館前集合

鳥屋の花まつり

4月20日（土）10時～15時

鳥屋：小島久雄さんの広い庭園

鳥屋の車両基地予定地の小島久男さんの庭園で花祭りイベント・ギター演奏・みんなで歌おう・クスノキの紙芝居・小島久男さんのお話など 参加費500円

お問い合わせ先：松本（090-8116-8088） 河内（042-689-2142）

リニア相模原連絡会

ブログ：<https://linearsagamihara.hatenablog.com/>

ツイッター：<https://twitter.com/tV8aD60PlgYXFFE>

あきらめない・・・ストップリニア 全国で住民運動！

あきらめない！

リニアは「国が決めたことだから」「今さら反対しても」という声もあります、しかしいま全国でくらし、環境を守るために沿線で住民が立ち上がっています。

山梨南アルプス市民 リニアの事業計画は有害無益

南アルプス市の、5地区の沿線住民らで作る「南アルプス市リニア対策協議会」は、2月10日、沿線住民ら約50人に説明会を開き、リニア建設により騒音などが平穏な生活を侵害すると訴えました。

そしてリニアの事業計画は有害無益で、JR東海の補償は正当ではないなどとして工事差し止めに加えて損害賠償を求める方針も明らかにしました。（テレビ山梨 2019.02.10）



決める主人公は私たち主権者です。

リニア使用認可ノー
田園調布など沿線の住民約560人が、国交省に審査請求



JR東海が建設を進めるリニア中央新幹線を巡り、個人所有地の地下に無断でトンネルを掘るのは憲法が定めた財産権の侵害に当たるなどとして、東京都大田区の田園調布など沿線の住民約560人が10日、国土交通省に大深度地下使用認可の取り消しを求める審査請求書を提出しました。（毎日新聞 2019年1月10日）

不退転の決意・静岡県知事

川勝平太知事答弁・・・県といたしましては、リニア中央新幹線事業による水資源や自然環境に及ぼすマイナスの影響、悪影響の回避を図り利水者や地域住民を初めとした県民の皆様の不安を解消するため、不退転の決意で臨んでまいります。（2018年12月6日静岡県議会）



リニア・・・工事自体が無謀 工事なんてできっこない

南アルプスがエコパークに認定されたところに環境破壊すること自体が、しっかり捉えられていない。大井川の水は何十万という人たちが生業を営まれております。

工事自体が無謀。地元の理解、利水者の理解、流量に対しての見識の不足、そうした中で工事は発注する。工事なんてできっこないというふうに私は思っておりますがね。

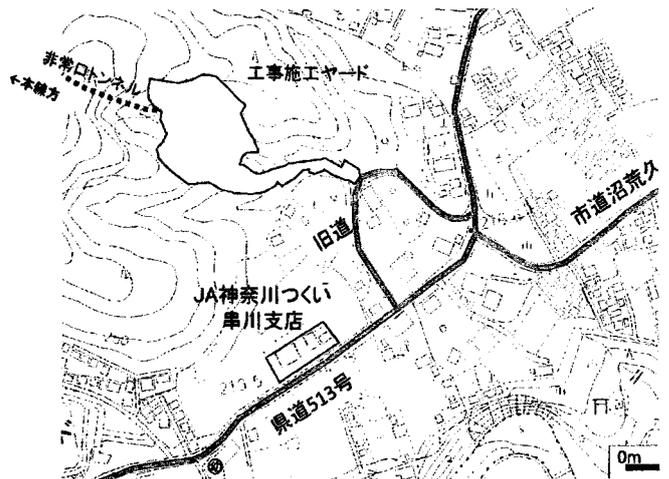
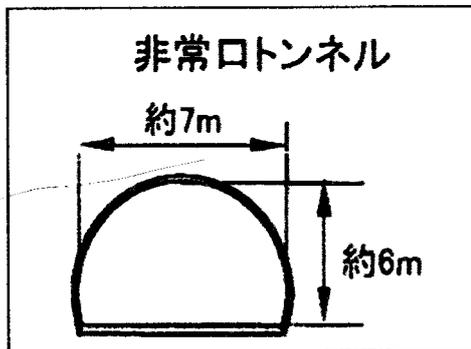
（川勝平太静岡県知事記者会見・2017年11月30日静岡県ホームページ）（松本）

「長竹非常口・本線トンネル」工事説明会開かれる

去年10月に工事が決まった、津久井トンネル・西工区のうち、長竹非常口にかかわる工事説明会が、2月半ばに串川地域センターで行われた。JR東海と工事会社は長竹非常口の坑口や工事ヤード、非常口トンネルの位置やトンネルの大きさなどをはじめ公表した。工事車両の通る道路やトンネル残土を運びだすルートも公表された。

長竹非常口の坑口からリニア本線までは長さ900m、トンネルの大きさは横約7m、縦約6mのかまぼこ型となっている。本線トンネルは横約13m、縦約8m。いずれも内径だ。トンネル掘削では火薬を使い発破をかける。

工事ヤードは沼バス亭近くにあるコンビニ裏手の山になる。トンネル残土はJA串川支店の前、長竹三差路を経由して、葦尾根方面へと運ばれる。このルートそばには幼稚園、串川小・中学校があり、歩道がほとんどない場所もある。10t、12tのトラックの通行は大変危険となる。本線トンネルの掘削が始まる2020年夏、工事車両は1日最大450台（往復）。これから工事が始まる。工期は2026年6月末までの予定。工事説明会への出席は多くなかったようだ。周囲の住民にも工事のことは十分に知らせてほしい。また工事説明会の案内は広範囲にやるべきだと思う。（河村）



大鹿村からの報告 - リニア工事で県道崩落

3月3日（日）18時より橋本駅北口にて、リニア新幹線を考える相模原連絡会主催で「リニア災害 長野・大鹿村からの報告」を約30名の参加で開催しました。大鹿村からの報告は、村民の前島久美さんにお願ひしました。

最近の動きとして、本坑はまだ掘削はできていないが、作業用トンネル坑口は2019年度に新たに1か所増える。この3月から村内を通るリニア関連のダンプ車両は月平均

314台となるなど。また、2017年に起きたリニア関連工事が原因で、大鹿村に通ずる県道道路斜面が大規模崩落した事故で、本来ならばこの地質では掘削機を使わないと駄目だが、工事費用を安くあげるために発破を、しかも通常の2倍使っていたことが判明したそうです。前島さんは、「ともかくJR東海は、『早く! 安く!』で工事を進めている」ことを強調していました。リニア災害はこれからも起き得るし、そうなる前に早く工事を断念させなければなりません。この他、神奈川県駅予定地周辺の動きや、鳥屋地区のトラスト運動についても報告があり、その後の交流会も交えて有意義な時間を過ごすことができました。（渡邊幸之助）



相原高校の保存樹クスノキと緑地の保存を！

— 署名を集めています —

96年に渡り橋本のシンボルだった県立相原高校が4月移転する。今後、跡地がどうなるか伝える。プレハブ校舎は6月末までに解体。県はJR東海に駅上の土地を売却。他は県が貸して工事ヤードに。3月議会に予算が通ったら契約し、秋口頃工事開始予定。木を伐るのはそれより前かも。駅以外は土地区画整理事業で開発し、県は一番の大地主だ。市民が求める保存樹クスノキと緑地の保全に向け、ぜひ大地主さんには尽力していただきたい。この間、人々の声を束ねる署名活動を通して相原高校が愛されてきたとしみじみ思った。同時に間違っただ情報を信じている人が多いことも知った。リニア駅は相原高校のアリオ側から子どもセンター方向なのに、真ん中を突っ切ると思っていたり、クスノキはリニアと大開発に邪魔だと伐られるのに、倒木しそうな危険な木だから伐られると思っているなどだ。

どこからそんな情報が広まったのか。野鳥好きの私は行き場を失った鳥たちを思うとつらい。敷地内を棲み処とする生物は人間でなくても「先住民」だ。

署名協力どうぞよろしくお願いします。

(橋本の緑と安心を守る会T&Y)

署名問合せ 042-712-3560 飛澤



市と県はリニア事業に協力一辺倒でよいのか？

■ 民間会社の代わりに用地買収する自治体職員

7年前の2012年2月、当時の黒岩県知事と加山相模原市長は共同記者会見し、リニアの中間駅を橋本駅周辺、県立相原高校内に誘致し、その経済効果を期待する姿勢を示しました。

一方JR東海と国は、従来の新幹線とは全く異なる乗り物にもかかわらず、全国新幹線鉄道整備法という法律にうまく組み込ませました。JR東海は、この法律の第13条“地方公共団体は用地買収のあっせんなどに努める”とのお墨付きの下、県や市と協定を結び自治体に用地買収交渉を委任しました。(旧市内は相模原市、旧津久井郡は県が担当する)

市民からすれば、自分たちを守るはずの自治体職員が一民間企業の事業のために働き、用地買収を進めていくのです。まして「リニアは必要ない」「公共事業とは違う」と思う土地所有者の思いは大変複雑です。(市はその後、職員の手簿から工事にも詳しい首都高速(株)に業務の委託をしている。)

■ 利潤追求の巨大工事より住民の生活を守ることを第一義に！

市長や県知事は誘致して後は知らんぷりでは困ります。従来の新幹線とは全く違うリニアは“最先端の技術”の言葉の陰に予測もつかない環境や暮らしへのダメージが起こり得るのですから。膨大な残土運搬トラックが走り回ります。橋や道路を人々が安全に使えるのか？山を削り谷を埋めた人工物のすぐそばで暮らす人々は、異常気象の豪雨にあっても安全でいられるのか？

橋本周辺の浅いトンネル上で地盤沈下が起こっても対応し得る専門家による第三者委員会は必要ないか、水資源はどうか等々、未曾有の巨大工事に備えておく事が沢山あります。

静岡県は知事を先頭に、リニア工事で減水する大井川下流の住民の生活や産業を守るため、JR東海と対峙しています。首長と議員には住民を守る本来の立場に立って、リニア事業とJR東海に向き合うべきだと強く思います。(桜井)

お願い

★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。

郵便振替口座：00240-7-71305 口座名：リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者：代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本2-6-2 携帯 090-4378-9257